

令和6年度 学校アクションプラン 年度末評価

龍谷富山高等学校

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持

重点項目	1. 教科指導	
重点課題	生徒の学習意欲を高め、自主的に学習活動を進めていこうとする意識の向上を図る。 教師の指導力向上。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学習課題を見つけ、意欲的に学習活動に取り組もうとする生徒が少ない一方、与えられた学習課題には真面目に取り組む生徒が多い。 目標を持って、学習時間の確保や学力向上に取り組む生徒が少ない。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習時間が0の生徒を減らす。 生徒が計画的に学習を進めていこうとする意識を高める。 学年末の評価で不認定となる生徒を減らす。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に目標設定、学習時間設定の用紙を配付し、計画的に学習を進める意識を高める。 定期考査前に学習支援の為の補習を実施することで、生徒の学習に関する理解度を深める。 年数回学習調査を実施することで、生徒自ら学習を見つめなおす機会とする。また、教員は生徒の実態を把握し、学習意欲の向上と指導の参考とする。 年数回の教員研修・互見授業・校内研究授業等を実施し、教員の指導力向上を図る。 	
達成度	学年と協力し、目標設定、学習時間設定の用紙の配付や、定期考査前の学習支援の為の補習を実施したことで、生徒の意識の向上について、一定の効果を上げることができた。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 教員研修 8月：観点別評価研修会 10月：互見授業 11月：校内研究授業 12月：出席簿記入についての研修会、生徒指導要録についての研修会を実施。 生徒の学習意欲の向上 学年と協力し、目標の紙の配付・定期考査前の学習支援の為の補習を実施。 	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導力の向上と意識の向上については、一定の成果が表れてきているように思う。 定期考査前の学習支援の為の補習については定着しつつあり、職員室等で生徒が質問に来る姿を目にすることが増えたことから、成果が表れてきている。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 教員の更なる意識、指導力の向上。 教員の意識の向上は一定の成果が表れていると感じるものの、全体の意識が高まっているとは言い切れない。今後、一人ひとりの教員の意識や指導力がさらに向上するよう考えていく必要がある。 生徒の更なる学習に向けての意識向上。 全体的にみると、学習に対する意識が向上してきているように感じる。教員側の授業に対する意識を更に向上させることで、生徒の学習意欲を更に高めることができるのではないかと考える。 	

重点項目	2. 宗教教育	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 「宗門校の生徒」であるという意識を高め、「学園の心」の具現化に努める。 教室での朝礼・終礼礼拝、慈光堂での全校・学年・クラス礼拝において、正しい作法で礼拝を行い、念仏(南無阿弥陀仏)の音が響き渡る雰囲気を作る。 報恩献金・募金活動の目的・意義を理解させ、善意を積極的に被災地域等へ届ける。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に宗門校(龍谷総合学園)の一員であるという意識が低い。 本校の中心となる場所である慈光堂において、入退場・礼拝の所作が徹底されていない。 「朝の礼拝(勤行)」に自主的に参加する生徒は少ない。 献金の呼びかけがクラスによって差がある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 教室や慈光堂での礼拝において、声に出しての念仏、大きな歌声での聖歌が響き渡る。 自主的に「朝の礼拝(勤行)」に参加する生徒が増え、良き聴聞の機会とする。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに「宗門校生徒としての意識調査」を実施し、学年・宗教科等と連携して生徒たちの意識向上を図る。 「報恩の日」に生徒(3年生)が話す機会を設けることで、生徒自身が同世代の思いや考えを知り、己の日常に刺激を与えるきっかけとする。 学年集会やHRを活用して礼拝の正しい作法を定着させ、念仏・聖歌が響き渡るように指導する。 「朝の礼拝(勤行)」では学年礼拝・クラス礼拝を含め毎回「出席確認」を取り「宗教」の評価に加味する。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や礼拝前に、報恩献金の意義について話す。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・「宗門校意識調査」から宗門校生徒としての自覚は、徐々に向上していると思われる。 ・慈光堂への入場の仕方・黙想の姿勢は身につけてきたが、話を聞く態度には課題が残る。 ・報恩の日の礼拝、学年礼拝、クラス礼拝での先生方や代表生徒の話は、学園生活を送る中で心の糧となった。 ・宗教委員が「報恩の日」のみならず、文化祭など学校行事を通して、募金活動など主体的行動が見られた。 ・聖歌隊(宗育・コーラス部)の編成が定着化し「報恩の日の礼拝」に華やかさが出た。 		
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で合計3回の「宗門校生徒としての意識調査」を実施し、意識向上を図った。 ・毎日の「朝の礼拝(勤行)」において、毎回出席確認を行い「宗教」の評価に加味した。 ・「能登半島地震の被災地」や「大船渡林野火災の被災地」などへの義援金、また各種団体へ「報恩献金」から送金した。 		
評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒が、本校が「宗門校」であるということを理解している。 ・宗教歌の歌声がまだまだ小さいが、礼拝の姿勢は良くなってきた。 </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒が、本校が「宗門校」であるということを理解している。 ・宗教歌の歌声がまだまだ小さいが、礼拝の姿勢は良くなってきた。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒が、本校が「宗門校」であるということを理解している。 ・宗教歌の歌声がまだまだ小さいが、礼拝の姿勢は良くなってきた。 		
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝礼礼拝や全校・学年礼拝等での「宗教歌」を大きな声で歌えるようにしなければならない。 ・生徒、教員がともに「師弟同行」の精神を具現化するためにも、教職員宗教教育研修会をより充実させなければならない。 ・宗門校生徒としての自覚をより高めるためにも、「しっかりと挨拶できる生徒」の育成に努めなければならない。 		

重点項目	3. 進路指導		
重点課題	生徒の進路意識向上と進路目標の確立・実現		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学年の生徒の進路に対する意識が薄く、具体的な目標をもって進路に向けた活動を実践していくことが難しい。3学年になってようやく意識を持ち始める生徒が少なくない。 ・3学年で国公立大学を志望する生徒や私立の4年制大学を目指す生徒が多数在籍している。就職希望者は、50名程度である(令和6年3月末時点)。 		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年の進路ガイダンスを通して将来のことを意識しながら2年時からのコース選択につなげる。 ・2学年の進路ガイダンスを通して進学や就職についてより具体的に考える機会を増やし、進路意識の向上を図る。 ・3学年の進路活動に対する支援満足度が5段階評価で4以上が80%以上。 国公立大学合格者 2名以上 就職希望の達成度(一次推薦応募先の合格率) 90%以上 		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で進路ガイダンスを行い、進路に対する意識の向上を図る。 ・1、2学年に classi を導入して生徒のラーニングサイクルと教員のコーチングサイクルを確立させ、学習指導・生徒指導・進路指導に活用させる。 ・生徒たちが進路指導室を利用しやすくなるよう環境を整え、資料閲覧や進路相談に対応する。 ・オープンキャンパスや学校見学会の情報を生徒たちにわかりやすく提供し、それらへの参加を促す。 ・教員が生徒の進路に関する情報収集と情報共有を積極的に行い、個別指導と全体指導をうまく組み合わせながら、学習指導と進路指導を効果的に行う。 ・企業訪問や情報収集を積極的に行い、就職支援アドバイザーの力を借りながら生徒の就職先の確保に努める。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年の進路活動に対する支援満足度 5段階評価の4以上 94.3% ・国公立大学に5名合格。 ・就職希望の達成度(一次推薦応募先の合格率) 97% 		
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に1度、学年別の進路ガイダンスを実施した。 ・進学スプリングキャンプを実施し、50名の生徒が参加した。 ・進路ガイダンスでの振り返り活動や進学スプリングキャンプでの事前・事後学習、進路だよりの発刊など進路学習に Classi を積極的に活用した。 		
評価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>目標に対して概ね達成することができたが、進路未決定のまま卒業した生徒もあり、引き続き支援が必要である。</td> </tr> </table>	B	目標に対して概ね達成することができたが、進路未決定のまま卒業した生徒もあり、引き続き支援が必要である。
B	目標に対して概ね達成することができたが、進路未決定のまま卒業した生徒もあり、引き続き支援が必要である。		
次年度に向	<ul style="list-style-type: none"> ・進学する大学や就職先など、新規の開拓が必要。 		

けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学進学希望の生徒への方向づけと支援が必要。 ・離職を防ぐためにも、就職内定者への内定者指導に力を入れなければならない。
-------	---

重点項目	4. 生徒指導
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で活躍するために必要なコミュニケーション力と規範意識を育成する。 ・現代の社会に適した校則やルールづくりを行う。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする生徒が少ない ・規範意識が薄く、問題行動（再指導）が多い。 ・重大事案が発生している
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の浸透（実感） ・規範意識の向上（外部視点） ・問題行動の再指導率の減少
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の挨拶の活性化をはかる。 ・一斉指導（集会）を増やし、多くの教職員に指導、伝達の機会をつくる。 ・積極的に個別指導（別室）を行い、厳正かつ柔軟に指導/支援する。 ・部活動生徒の規範意識の再構築をはかる。 ・リーダー教育（組長・部活動キャプテン）を実施し、生徒間での社会意識向上に努める。 ・学校ルールの規制強化と緩和（ルール廃止）
達成度	多くの個別指導を通して、規範意識の向上に務めてきたが、教室内でのいたずら行為や器物破損による問題行動も見られ、再指導を受ける生徒もいた。
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室内にテーブルを設置 ・個別指導の充実 ・全体指導の機会増
評 価	C 命にかかわる重大事案は発生しなかったことはおおいに評価できる。しかし、生徒指導上の事案が原因での退学者がいたことは残念である。
次年度に向けての課題	社会で通用する規範意識を育むための教育（毎日の学校生活）を実践しなければならない。その中心として挨拶の活性・定着を第一達成目標とする。

重点項目	5. 特別活動
重点課題	学校行事や生徒会活動、部活動、SDGs 活動、ボランティア活動等を通し、自主性・責任感・協調性などを育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事などに意欲的に取り組み、充実した学校生活を送っている生徒がいる一方で、これらの活動に関心のない生徒も少なからず存在する。 ・体育大会、文化祭などの学校行事や、生徒会活動、委員会活動において、教員からの働きかけに対し、真面目に取り組むことはできるが、自分の考えを持ち、自主的に行動できる生徒は少ない。 ・SDGs を意識した生活を送ることができる生徒が増加しつつある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率の向上。 ・各委員会で新たな取り組みを実施し、活発な委員会活動を目指す。 ・SDGs 活動を昨年度より発展させる。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・社会活動部（ボランティア）を新設し、校外ボランティア活動や SDGs 活動に積極的に取り組む生徒を育成すると同時に、その他の部活動に加入しない生徒も加入させ、校内ボランティアへの参加を必須にすることで、全員が部活動に加入することを目標とする。 ・月1回の定例委員会では、他の分掌と連携を取り、活発な委員会活動を行う。 ・代議員会を実施し、学校行事に生徒の意見を反映する。 ・学年ごとに SDGs 活動への新たな取り組みを考え、取り組ませる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会活動部（ボランティア）を新設し、生徒全員が部活動に加入したが、ボランティア活動を定期的に行うことはできなかった。 ・定例委員会は実施しているが、委員会によって活動の差が見られた。 ・代議員会での意見を参考に、体育大会で新種目を取り入れた。また、生徒会からの働きかけにより、文化祭ではスマートフォンの使用を許可していただいた。

具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会と健康指導部が連携し、清掃活動を行う際にボランティアを募ったところ、1年生約 50 名、2, 3年生がそれぞれ約 10 名と多くの生徒が参加したが、その後のボランティア活動を実施することができなかった。 ・体育大会では、代議員会で要望の多かった借り物競争を実施し、生徒会が準備・運営を行った。また、生徒会の生徒が中心となり、12月の壮行会を新しい形で実施した。
評価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は高くなったものの、内容の充実ができていなかった。 ・生徒会を中心に新たな取り組みを実施した一方、SDGs 活動の進展が見られなかった。 ・定例委員会は定着したが、昨年以上の新たな取り組みの見られる委員会が少なかった。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動、社会活動部（ボランティア）の活動内容の見直し ・SDGs 活動の方向性の再考

重点項目	6. 環境と健康指導
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や各種活動に落ち着いて取り組むための環境管理（美化）と、自分の身を守ることができる危機管理（防災、防疫）の両面について意識向上を図り、実践（行動化）することで校内外の環境整備を図る。 ・「自分の健康（命）は自分で守る」という意識を向上させ、将来にわたり健康な生活を送れるよう、疾病予防や健康の保持増進に努める態度を身に着けさせる。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを自ら拾ってごみ箱に捨てる習慣が少ない。 ・美化に対する意識が低下しており、清掃活動の形骸化につながっている。 ・健康診断後の受診率が低く、自らの健康への意識が希薄である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「きれいな学校・気持ちの良い学校・安心して過ごせる学校」を目指し、常に整理整頓が届き丁寧な清掃活動や進んでごみを拾う姿など日常化する学校を目指す。 ・健康診断後の受診率の向上を図る。 各学年及び全校・・・30%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の環境美化については、特活部（美化委員、保健委員）等と協力して行い、意識化を図る。 ・美化委員と掃除の手順表を作成し、各担当場所に掲示して教員も一緒に清掃活動を行い、環境美化に対する意識を高める。 ・健康診断後は、受診カードを生徒に配布し受診勧奨するとともに、学期末の保護者懇談会の機会を捉えて保護者に対しても受診行動への喚起を行う。各学年の保健委員と連携して受診状況を掲示し、学期ごとに受診状況を集計し周知する。 ・「ほけんだより」を発行し、保健に関する情報提供と知識の向上を図る。 ・外部講師による保健講座を行い、健康の保持増進につなげる。 ・感染症を含めた疾病予防のための基本行動（清潔保持、咳エチケット、早期受診、休養など）を自ら実践できる態度と意識の喚起に努める。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員と連携したことにより、生徒自らモップの交換の準備や片付けをおこなったり、掃除のチェック表を作成したりと環境美化に対する意識が高まった。 ・健康診断後の受診率が 24.1%で前回よりも上がった。 (1年 12.4%→23.2%→28.6%、2年 8.4%→16.7%→18.0%、3年 7.2%→22.6%→26.1%)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員と連携して掃除の手順を確認し、各掃除場所に手順表を掲示した。また、美化委員から掃除の強化をしたいという意見があり、卒業式1週間前に美化強化週間としてチェック表を作成し、美化委員を中心に行った。 ・各担任を通じて、受診カードの配布時に受診の喚起を行った。また、保健委員にも各クラスに呼び掛けや各学年の受診率がわかる掲示物を作成し掲示をして、受診の喚起を行った。
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員と連携して活動を行ったことによって、生徒自ら行動する姿が増え、美化に対する意識が高まった。 ・各担任や保健委員を通じて受診の喚起や受診率の掲示を行うことによって、受診に対する意識は高まった。各学年及び全校で受診率の目標を達成するまでには至らなかったが、昨年度よりも受診率が上がったことは評価できる。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除の手順の徹底。 ・受診率の向上。 ・美化委員、保健委員との連携。